

学習の流れの例

- 1 避難所の役割について理解する
- 2 どのような人が避難所に来るか考える
 - 例) 乳幼児、老人、外国人、障害を持った方 等
- 3 その人たちがどのようなことに困るのか考える
 - 例) 思う存分遊べない、足腰が悪いのに床で生活しなければならない、日本語がわからない
- 4 自分たちができることについて考える
 - 例) 一緒に遊んであげる、避難所の運営を手伝う、日本語の案内以外に英語の案内を作る 等

学習後の生徒の姿

主体的に学習に取り組む態度

避難所の役割および課題を学ぶ中で、避難所で中学生ができることを理解し、その中で自分ができることを実行しようとしている。

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

①不特定多数が避難所に集まるなど、災害時は性暴力被害のリスクが高まると指摘されている。熊本地震の時には、家族から離れた場所で寝ていた10代少女の布団にボランティアの少年が潜り込んだ事件も起きている。

※参照：西日本新聞
【「娘の傷は一生消えない」避難所での性被害の闇 把握10件、相談できず潜在化も 熊本地震2年】

女性の性被害だけでなく、プライベート空間が確保できずストレスが溜まったり、盗難被害が出たりすることもあるため、非常時の人間の心理や行動の例を生徒の実態に応じて示す。

中学生の多くは地元中学校に通っており、災害時には地域にいると考えられる。そして、一定の理解力と体力を有しているため、行政も災害時の中学生の活躍に期待している。

②声を掛ける時は、「大丈夫ですか?」ではなく、「夜は眠れていますか?」など、具体的に質問をした方が答えやすい。

※参照：兵庫県立大学大学院看護学研究所
「災害時に避難所で高齢者の看護にあたられる皆様へ(ポケット版)」

③下水直結式仮設トイレ(通称:災害用ハマッコトイレ)

※参照：横浜市「下水直結式仮設トイレについて」

①東日本大震災の際、自らも被災している中学生が、高齢者を背負って移動を助ける様子。小さな体で重い水や物資を運んだ子もいる。そういった子ども達の姿は、震災後の厳しい状況にあって希望であったと記録されている。

※参照：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
「報告書・震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト」

中学生の頑張る姿に元気づけられたり、大人に言われるより、中学生に言われる方が大人は素直に聞けたりすることがある。

②避難所生活で健康に過ごすため、水分や塩分をこまめにとったり、体の運動や十分な睡眠・休息を取ったりする。

※参照：厚生労働省「避難所生活で健康に過ごすため」

③市町村が指定するもので下記を目的とした施設である。
・災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させる。

・災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させる。

※参照：内閣府防災情報「2-2 指定緊急避難場所・指定避難所-防災白書」

④荷物を運んだり、お知らせを掲示したり、専門的な知識がなくても協力できることはたくさんある。目の不自由な人に配慮し、お知らせは拡声器などを用いた放送でしらせたり、耳の不自由な人に配慮し、放送によるお知らせは必ず掲示する等。

※参照：横浜市「地域ぐるみで災害対策 災害時要援護者支援ガイド 地域ぐるみで助け合い(共助)」

⑤障害があることを知ってほしい人

<視覚に障害がある方の声>

視覚に障害があることに気がついてもらえず「あっちにトイレがあります」というような説明をされて戸惑った。「あっち」と言われても指す姿は見えていません。

<聴覚に障害がある方の声>

外見からは聴覚に障害があるとわからないので話しかけられても戸惑うことがあります。

<内部障害がある方の声>

外見からは障害があることがわかってもらえず困ることが多いです。

※参照：土浦市
「避難所について 避難所における障害のある方・高齢の方への配慮」

三章 - 2 共 助

避難所で私たちができること

避難所は、地域の人々による助け合いによって運営されています。自分には何ができるかを考えることが大切です。

めあて 避難所でできることを実践しようとする意欲をもつ。ワークシート

イラストを例にして自分に何ができるかを考えてみてね!

避難所とはどのようなところ?

地震のときに開設される避難所を「地域防災拠点」といいます。家屋の倒壊などにより、自宅にとどまれない人が一定期間避難生活を送る場所で、横浜市内で震度5強以上の地震が発生したときに開設されます。地域防災拠点には、防災備蓄庫を設置し、自宅から持ち出せない人のための食糧や防災資機材を備蓄しています。横浜市内の市立小・中学校など459カ所が指定されています。(令和4年4月1日現在)

体育館(避難所)
在宅避難ができない人たちが療養します。

給水所
災害時給水所を設けます。場所は「はまどきマップ」や「ロケスマ」などで確認できます。

炊事場
炊き出しや食料の支給をします。

物資の支援

ペット救護所

高齢者への声かけ

配給をする

水や物資を運ぶ

小さい子の遊び相手

自らボランティアをする

34

避難所で気をつけること

避難所は被災した人たちが共同生活をします。いろいろな人と安心して過ごすために、私たちが気をつけることはなんですか?

- 大声でさわがないなど、他人の迷惑にならないようにする。
- 窃盗に気をつけ、貴重品を抱えて寝る。
- トイレはひとりで行かず複数人で行く。
- 笛や防犯ブザーを用意しておく。
- 怪しい人を見かけたら警察や施設担当者に連絡する。
- 手洗いうがい、消毒をこまめにする。

横浜市危機管理室からのメッセージ

避難所での生活を想像してみましょう
災害時に避難所で生活する場合、さまざまな人と昼夜を問わず、一定期間ひとつの空間で過ごすことになります。災害を皆で乗り切るために助け合いながらの共同生活です。自ら進んで誰かを助けられるように日頃から実践し、災害時に発揮できることを期待しています。

災害時のトイレ対策について
地域防災拠点には、自宅や避難所のトイレが使えなくなったときに備えて、さまざまな仮設トイレが備蓄されています。どんな仮設トイレがあるか、右の二次元コードから調べてみましょう。

ペットの避難について
避難所には動物を苦手とする人や、動物アレルギーなどの理由で動物と一緒にいられない人もいます。決められた場所に預けるようにしましょう。

35

⑤横浜市の災害時ペット対策については、ガイドライン「災害時のペット対策」にまとめられている。ペット同行避難は、動物愛護の観点のみならず、放浪動物による人への危害防止などの観点からも必要な措置。

※参照：横浜市「災害時のペット対策(震災)」

④<確認しておくの良い点>

- ・自分の行く避難所はペットの受け入れをしているのか
- ・どのような飼育環境なのか(屋外、屋内、車中泊など)
- ・受け入れているペットの種類(犬、猫以外の動物は受け入れているのか)

※参照：環境省「自治体等が行う人とペットの災害対策」

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：生徒への支援の視点や発展的な内容